

付着生物(ユウレイボヤ等)ラーバ情報

平成28年度の付着生物ラーバ(浮遊幼生)調査は、4月から久栗坂、川内の実験漁場で行っています。

平成27年度の蟹田、奥内、小湊、野辺地で行った10~3月調査の経過も含めて、その結果をお知らせします。

1 27年10月~28年10月までのラーバの出現と付着状況

ラーバ等の出現数の推移は図2、3のとおりです。また、直近のラーバ等の出現数は表1のとおりです。

表1 ラーバ等の出現状況

調査地点	調査月日	単位:個/トン		
		ユウレイボヤ	オベリア	ムラサキイガイ
久栗坂沖	H28.9.15	0.0	0.0	0.0
小湊沖	H28.10.2	0.0	0.0	0.0
川内沖	H28.9.15	0.0	0.0	0.8

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

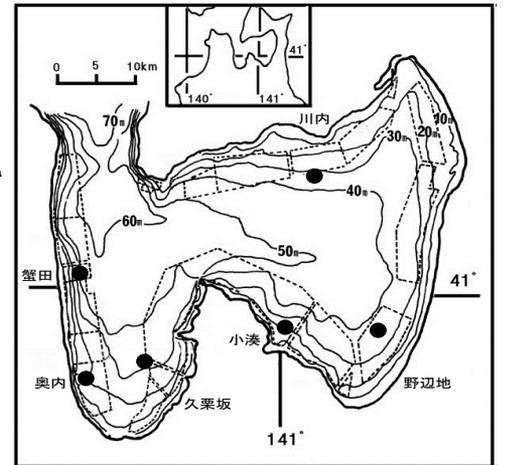


図1 ラーバ調査地点

(1) ユウレイボヤ

平成27年10月中旬~平成28年2月上旬にかけて、ラーバは、西湾では久栗坂沖で最大5.0個/トン、東湾では小湊沖で最大10.0個/トン見られましたが、平成28年8月以降は見られていません。

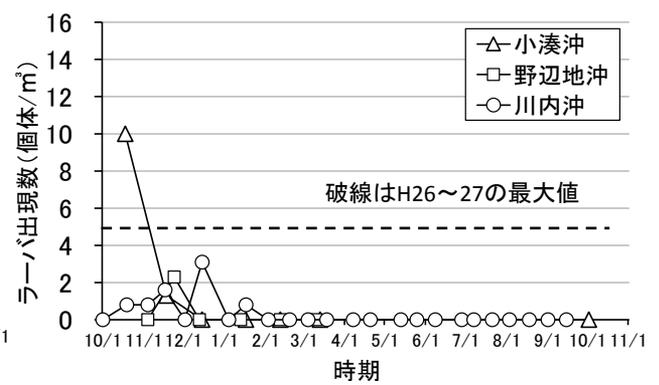
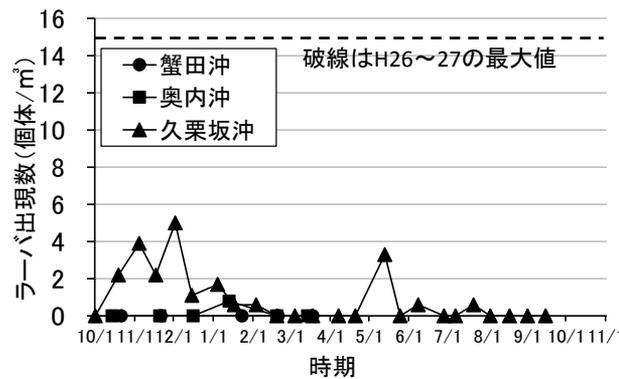


図2 ユウレイボヤラーバ出現数の推移(平成27年10月~平成28年10月)

(2) ムラサキイガイ

平成28年4月下旬~5月上旬にかけて久栗坂沖で最大35.5個/トン、川内沖で最大450.8個/トンのラーバが見られましたが、それ以降出現数は減少し、8月以降は久栗坂沖で最大1.7個/トンと出現数はわずかです。

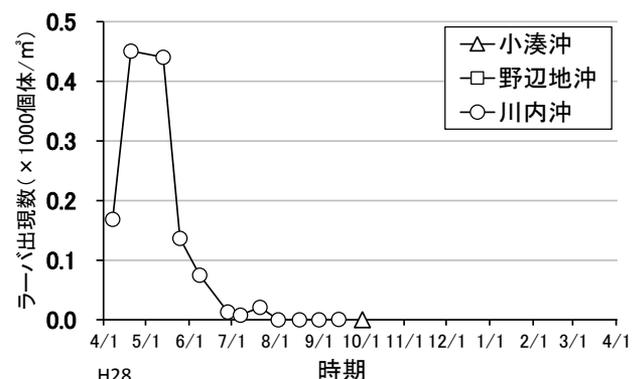
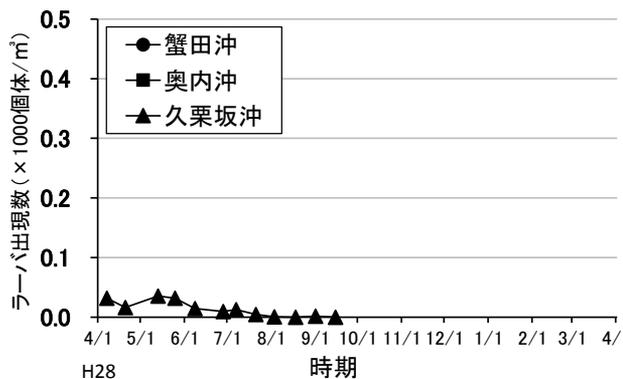


図3 ムラサキイガイラーバ出現数の推移(平成28年4月~10月)

(3) オベリア類(通称:クサ)

平成28年4月上旬以降、クサは見られていません。

(4) キヌマトイガイ

平成28年7月下旬以降、ラーバは見られていません。

2 今後の見込み

ユウレイボヤは水温20℃以下で産卵します。現在、陸奥湾内の中層の水温は19℃前後ですので、これからラーバの出現と付着が増加していくものと思われます。また、ユウレイボヤは深いところで多く付着することが分かっていますので、施設を沈めすぎないようにしましょう。

ムラサキイガイのラーバはほとんど出現していないので、現在付着しているムラサキイガイが成長する前に耳吊り洗浄、入れ替え作業を完了するようにしてください。

オベリア類(クサ)やキヌマトイガイの付着は年明けになるものと思われます。

平成25年度~27年度と同じ湾内6点(図1)で調査し、来年の3月まで月2回ラーバ情報を発行しますので、養殖作業の参考にしてください。次回は10月下旬に発行する予定です。

